

【豊平区】シンボルマーク(昭和52年7月制定)



区のキャラクター「こりん」と「めーたん」

〈位置と広さ〉

市の南東部に位置し、北は東北通で白石区、西は豊平川を隔てて中央区、南西部は丘陵地で南区、東は清田区と接する。面積は46.23平方キロメートルで、東西に6.7キロメートル、南北に14.5キロメートルの広がりをもつ。

〈地勢と現況〉

豊平地区は、歴史を感じさせる寺社と再開発事業による近代的なビルなどが立ち並び、新旧の味わいを見せている。平岸・南平岸・中の島・月寒地区は古くから商業地域として発展し、活気あふれる街並みが続いており、西岡・福住・美園・東月寒地区は、かつては牧場や田畑、果樹園が広がっていたが、現在は落ち着いたたたずまいをみせる住宅街となっている。

また、様々な樹木や鳥、昆虫などを見ることができる「西岡公園」、緑のセンターを中心に、針葉樹、花木、野花、庭園などを楽しめる「豊平公園」のほか月寒川・望月寒川・吉田川など河川も多く、憩いと安らぎを与えてくれる。さらに「大和ハウス プレミスト ドーム（札幌ドーム）」をはじめ、道立総合体育センター「北海きたえーる」、通年型のカーリング専用施設「どうぎんカーリングスタジアム」などのスポーツ施設の他、さっぽろ羊ヶ丘展望台などの観光施設、大学や研究機関も充実している。

区では、ひとりひとりの区民が安全・安心で心身ともに充実した生活を送ることができる区を目指し、「スポーツ」「健康」「安心安全」をキーワードに街の魅力と活力を高めるまちづくりを進めている。

〈ホームページ・アドレス〉

豊平区役所ホームページ「夢ひらく 花ひらく とよひらく」

<https://www.city.sapporo.jp/toyohira/>

【清 田 区】シンボルマーク(平成9年11月制定)



平岡公園の梅林

〈位置と広さ〉

清田区は、札幌市の南東部に位置し、白石区、厚別区、豊平区、南区、恵庭市、北広島市の4区2市と接している。面積は、59.87平方キロメートルで、東西に7.8キロメートル、南北に15.3キロメートルの広がりをもつ。

〈地勢と現況〉

清田区は、区域のおよそ3分の2が緑豊かな丘陵地と山林に覆われ、南北に縦断するあしりべつ川（厚別川）、山部川などの河川にも恵まれた自然豊かな区である。南西部には白旗山を有する市最大の市有林があり、「ふれあいの森」や「自然観察の森」が整備され、行楽や散策の場として多くの人々に利用されている。

区民から「あしりべつ川」と呼ばれ親しまれる厚別川は、アシリベツの滝、有明の滝などが合流し豊平川に注いでいる。かつて両岸の平地は、札幌で一番の米産地帯であったが、今は河川敷に花壇や樹木の植栽が施され、散策やパークゴルフなど区民の憩いの場となっている。また、平岡公園には、約1,200本の梅の木が植栽され、梅の名所として広く親しまれている。

区では、「多くの方が行き交い、安心して住み続けたいまち」を目指し、清田区の魅力である「自然」（「白旗山」「あしりべつ川」「平岡梅林」）、「食」（「きよたマルシェ」「きよたスイーツ」）、「音楽」（「きよフェス」「区民コンサート」）を活かしたまちづくりを区民と協働で進めているほか、安心して生活できる環境づくりのため、防災、子育て支援（「こそだてインフォメーション」等）、健康増進（「きよっち健康チャレンジ」、「健活ラボ」）等の取組を進めている。

〈ホームページ・アドレス〉

清田区役所ホームページ「きよたF a n倶楽部」

<https://www.city.sapporo.jp/kiyota/>

【南区】 シンボルマーク(昭和52年6月制定)



市民の水がめである豊平峡ダム

〈位置と広さ〉

南区は、札幌市の南西部に位置し、小樽市、千歳市、恵庭市、伊達市、京極町、喜茂別町そして赤井川村の4市2町1村と接している。面積は、657.48平方キロメートルで、市の総面積の約60パーセントを占め、東西に33.2キロメートル、南北に37.6キロメートルの広がりをもつ。

〈地勢と現況〉

区内には、無意根山や空沼岳など標高1,000メートルを超える山々がそびえ、真駒内川をはじめとした大小100余りの河川が豊平川へと注いでいる。市街地は平坦な北東部とこれらの河川に沿って形成されている。

豊かな自然に恵まれた区内には、滝野すずらん丘陵公園や真駒内公園など大規模な公園・緑地や市民の水がめである豊平峡ダムと定山溪ダム、札幌国際スキー場などがあり、市民のレクリエーションの場となっている。また、長い歴史がある定山溪温泉には、国内外から毎年多くの観光客が訪れている。そのほか、“芸術文化の薫る街”のシンボルとしての札幌芸術の森をはじめ、札幌市立大学芸術の森キャンパス、軟石採掘場跡を造成した石山緑地など、新しい芸術文化の発信地となっている。

南区では、地域の皆さまの安心・安全で豊かな暮らしを守るため、福祉・健康・子育て、防災、道路・公園の維持管理などの取組を進めるとともに、区内の大学等と連携し、地域資源であるアートを活用したまちづくりや、豊かな自然環境をはじめとした区の魅力のPRにも力を入れている。

〈ホームページ・アドレス〉

南区役所ホームページ「ゆたかな緑 きよらかな水 みなみ区」

<https://www.city.sapporo.jp/minami/>

【西 区】シンボルマーク(昭和51年7月制定)



西区環境キャラクター「さんかくやまベエ」

〈位置と広さ〉

西区は、市の西部に位置し、東側は中央区に、南西側は山岳地帯に沿って南区に、西側は手稲区に、そして北東側は新川と琴似川を挟んで北区に接している。面積は75.10平方キロメートルで、東西に14.1キロメートル、南北に11.3キロメートルの広がりをもつ。

〈地勢と現況〉

区の南西部は手稲連峰を中心とした山々に囲まれ、そこから流れ出た琴似発寒川が区の中心を南北に流れている。この川は、左股川と合流して水量を増しながら、北部で琴似川と合流して新川となる。西区は、ほぼ琴似発寒川の扇状地の上に発展している地域である。南部の福井地区には、パークゴルフ場や炊事広場などを備えた五天山公園があり、市民の交流・憩いの場として親しまれている。一方、北部には発寒鉄工団地を有し、本市の第2次産業の重要拠点としての役割を果たしている。また、東部の琴似地区周辺は、区役所をはじめとする公共施設や様々な商業、文化施設が集積し、区を中心としての役割を果たしている。

区では、気軽に本格的な演奏を楽しむことができる無料コンサート「コトニジャズ」・「コトニクラシック」や芸術文化の祭典「西区文化フェスタ」など、文化芸術を生かした事業を区民と一体となって展開している。また、琴似発寒川での稚魚放流や一斉清掃、北海道で初めて導入した地域の団体との「アダプト・プログラム」による環境美化活動を実践しているほか、町内会、学校、企業、NPO法人などから組織される「西区環境まちづくり協議会」が中心となって、環境に優しいまちづくりを進めている。

〈ホームページ・アドレス〉

西区役所ホームページ「Hello! 西区」 <https://www.city.sapporo.jp/nishi/>

【手 稲 区】



シンボルマーク（平成2年3月制定）



手稲区マスコットキャラクター「ていね」

〈位置と広さ〉

手稲区は市の北西部に位置し、南東は西区と、西は南区・小樽市と、北東は北区・小樽市・石狩市と、北西は小樽市と接している。面積は56.77平方キロメートルで、東西に10.9キロメートル、南北に9.4キロメートルの広がりをもっている。

〈地勢と現況〉

地形は、区域を東西に横断しているＪＲ函館本線よりも北部は低地で泥炭層からなり、南部は北部に比べて高く火山岩（安山岩）からなっている。

手稲区は市内でも自然に恵まれた地域であり、特に、区のシンボルである手稲山（標高1023.12メートル）は、1972年冬季オリンピック札幌大会会場となり、その存在を全世界に広めた。現在は、四季を通じてスポーツやレクリエーションが楽しめる空間として、市民に親しまれている。

平成元年の分区当時、人口10万人程度であった手稲区は、現在では人口約14万人までに成長した。ＪＲ手稲駅の南側には、古くから栄えてきた商業地が広がり、北側一帯には新興住宅を背景に幹線道路沿いに大型店舗や商店街の広がりが見られる。曙地区には工業団地が立地し、また山口地区では砂地を生かした露地栽培が行われ、カボチャ（大浜みやこ）やスイカ（サッポロスイカ）などの特産品を全国に出荷している。

区では、「人に優しいまちづくり」と「ふるさと手稲づくり」をまちづくりの目標に掲げ、各種事業を実施。災害時における地域の自主防災力の向上を目的とした研修会の実施、大学や近隣市と連携したまちづくりの推進、手稲山の自然に触れ親しんでもらえるようなイベントの開催など、区民が住んでいて良かったと実感できるまちづくりの実現に向けて取組を進めている。

〈ホームページ・アドレス〉

手稲区役所ホームページ「ていねっていいね」 <https://www.city.sapporo.jp/teine/>